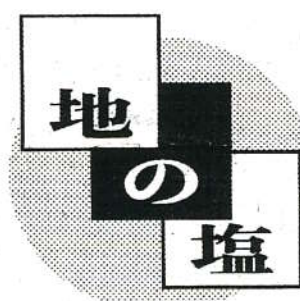


教会のホームページを見た、ある方からメールが来るようになった。「教会から徒歩五分の所に住んでおります。教会の前をよく行き来するのですが、正直申し上げて、何となく入りにくい気がします。自由に入ってもよろしいのでしょうか」。それから一カ月ほどたって、土曜日の夜のミサに参加されるようになった。「このような安らぎの場が、この町にあるとは知りませんでした。これからもできるだけ来ます」というのが感想▼求



道者の夜の集いが終わって、教会の庭で談笑していると、門の外を行き来する方がおられた。そのうち、中に入ってきて来られ、

を設置し、聖堂内部の写真を掲示し、夜でも案内が読めるように蛍光灯を付ける。屋根の十字架はライトアップする。環境を整備するのは易しい。要は意識改革。これが難しい▼教皇は「世界宣教の日」のメッセージで「宣教はゆるしを告げ知らせること」と明言されている。そして、それが「より大きな緊急課題」だと。しかし、現実には、まだまだ教会は裁きの場であり、宣教は余裕があればする、という感覚。「対話」になってない、一方

的な押し付け。このズレはどこから来るのか▼救いは、具体的には「ゆるし」といつかたちでもたらされる。「ゆるし」には喜びが伴う。「ゆるさされた者の集い」が教会であり、それは「喜び」に満ちた集いであるはず。ある司祭はいろいろな教会に出入りする若者に「ウロウロするな」と言った。教会はカトリックという組の「シマ」なのだろう。自己中心的な狭い考えが、福音宣教を妨げている。改心が求められて、と思う。(Y)